

専門研究B
(重点推進研究)

発達障害のある子どもへの学校教育における
支援の在り方に関する実際的研究
—幼児教育から後期中等教育への支援の連続性—

(平成22年度～23年度)

研究成果報告書

平成24年3月



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

はじめに

発達障害の障害特性は生涯にわたりその基本的な症状は持ち続けることが特徴である。幼児期から学童期、思春期・青年期そして成人期と年齢段階によりその状態像は変容していく。学校教育においては、幼児教育から高等教育まで教育環境が違い、求められる適応能力についても大きく異なってくることから、教育的支援の在り方については、その年齢や発達段階に応じて長期的、縦断的な展望を持ち、支援の連続性を視野に入れて考えていく必要がある。

幼稚園から高等学校までの各ライフステージにおいて、発達障害のある子どもは、その障害特性のために学習面や行動面、対人関係において適応困難な状態に陥りやすい。さらに、学校生活における不適応の問題の中には、適切な対応がなされないことによる二次的障害によるものもある。通常の学級における発達障害のある子どもへの支援にあたっては、特性に応じた個別的な指導と、学習環境にも配慮した集団における個に応じた指導の両面から支援の在り方を検討する必要がある。学習指導、生徒指導も視野に入れた、具体的な指導法、支援体制に関するより実証的な研究が求められ、教員の専門性（発達障害に関する指導力）をどう高めていくかも課題となる。

本報告書は、個への支援と集団における支援の両側面から、子どもの実態に応じたわかりやすい授業づくりをすすめる支援ツール（学級サポートプラン）の有効性の検証と、支援の連続性という視点から、幼稚園から高等学校に至るライフステージに応じた支援の在り方について検討し、まとめたものである。

幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教育現場において、発達障害のある子どもへの支援を考えるにあたり、本研究の内容が少しでもその一助になれば幸いである。

研究代表者 企画部総括研究員 笹森 洋樹

目次

はじめに	1
I 研究の概要	3
1. 背景と目的	3
2. 研究の方法	4
II 通常の学級における発達障害のある子どもへの支援	6
1. 発達障害の特性と学習上の困難さ	6
2. 学級経営と授業づくり	7
3. 学級サポートプラン	8
4. ライフステージに応じた支援の現状と課題	10
III 実践研究	
研究1 幼稚園における支援に関する研究	13
研究2 小学校における支援に関する研究	36
研究3 中学校における支援に関する研究	53
研究4 高等学校における支援に関する研究	101
研究5 地域における支援のつながりに関する研究	124
IV 総合考察	154
資料	162
研究体制	